

挿畫地學往來

亞細亞洲部
中

和書門			
一六五九二號	一八二函	九架	三冊

內閣文庫		
七五二八三號	三冊	八四函
和書		

內閣文庫		
番號	和	75283
冊數	3	(2)
函號	184	309



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



満州

マンチ
ユー

浅草文庫

書譜

満州

少緯

線

四十二度

度

起

五十三度

の

起

緯

以

東

緯

西

十

緯

計

滿洲人之二圖



東の東巴里を以て
一朝鮮國の
北を以て位置す
二面意山
樹林多し其

人口約四百五十万ありて南を
の人の耕種を生業とす
少々の浮浪者ありて
一東部帝國の轄らるる
地は毎日本極暑の時支那帝

きそ首城より

君を越へ

物産の葉草

穀物類たる首

城 キリンオーラ 吉林 省



副王の住居 モウクデン 盛京奉天 天府

より古の地あり 支那 國

及其家屋の横 此 地

あり 此 國の西 方 あり 大 なる 味

柵を 支 列 一 帯 右 國との 境 界

を
か
ち
あ
り

朝鮮國 又名高麗

朝鮮國之北緯線三十五度

より起り四十五度より至る緯線

を
時
の
西
北
度
より起り六度



朝鮮人

より止る七度里総

計
の
南
緯
線

州
の
南
緯
線

約
八
十
万
人

約
一
百
萬
人

此地を徧く稼穡をかゝるを
支那及び日本の兩國より
其地より其地の國王
毎年の貢を曲を以
て細むるを城を築
て

道と稱し外國の通交
する物産は人糸棉布
金珠鉄錫等なり

蒙古國

蒙古國ハ小緯三十五度より起

五十之度より年々
 強ハ北緯以西ハ
 夜ヲ起シ五午ハ
 夜ヲ止シ終計
 百四十萬ノ英里



韃靼婦人
 蒙古

人ハ口ヲ約シ百英里
 農事ヲ勤メテ馬牛
 畜養シテ生業トシテ
 中亞細亞沙漠ノ地
 曠野ノ地ノ多ク一
 部ノ水ヲ以テ貨物ヲ搬

少くも馬を駝に用ふ者を生鳥
の如きものもみを給くを
乃駝に用ひて馬に七
の尙湯の如きものも
以て下なる者城をカラコルムと云ふセシビスカ

一と稱すもの者王の居
地なるものも馬に
を以て用ひて馬に
ヤと云ふものも

西藏國
チベット

西藏国

羊之圖



西藏國を以て緯線二十度
より起り三十七度と止む
經線は
東經西經二十度より起り
五十二度と止む但し
總計
七千餘の戸ありて
支那帝

より大臣二員
を以て國事を
親なるは國
人ハ一妻を娶
むとて數人

其夫とて之を昔よりすゝ因て
他如数弟ありし其長兄一己の
意よりその也其を娶て利よ
あを西よりと結んて了り実
の音とすし他似たる人曰

約三万五千名の総計 あは

亞西亞洲中俄羅斯國 ルシヤインア
シヤ即チ西比

利亞シ
ベリヤ

西比利亞國と俄羅斯帝國
の都 ふ

存るまは好本國及び白王
 達利國より少水洋の海峽
 西細亞海の
 少部を全有
 東方の首

雪山山水



城を「イルクツスケ」と云ひ西
 トホルスケ」と云ふ大河を「オビー」「エ子シ」
 「ナー」及び「アモール」なる名を換へ極
 地を「モル」なりと云ひ
 松樹の海多業在國



西比利亞人
山獵之圖

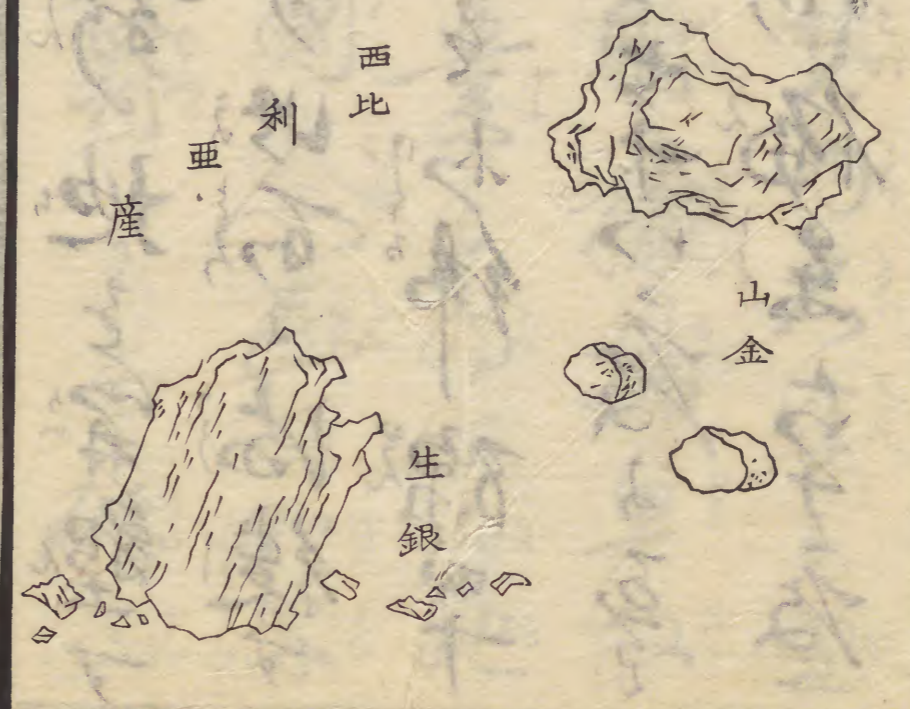
獸の皮鞆 麴
 毛罽 輸出す
 多々 他邦の
 物産と 交易す
 此地の 人民の 種

の中間にアルタイ 山及びアモール 河あ
 りて 境界となす 物産を白
 金 黄銅 鉛 鉄 以外の 礦物も重
 多し「ウラール」及び「アルタイ」山より出づ 黒
 貂 黄銅 海狗 狼 及び 他

類多し種多し其内大生を聖
畜多し重し射獵捕魚
荒を以て生業とあす此地
まの各羅新國人民の犯累
せしもの刑罰とて石山

み使役し之新地を再墾す
またり政府より此の法に従す
西比利五國を以て緯線四十
三度より起り七十度より至り
延びて其塔の偏東六十度

起日以西七十
 九度より其長
 十里を廣さるる里
 ありて總計五百
 六十里の方里ありて
 善く一歐羅巴全洲
 ありたること三分之
 一なり



天竺國

ヒンドスタン即チ
 印度 インデヤ

天竺國は印度國を西に
 海中南方ありて中間に
 半島を全有せり廣大なる
 國なること如左

ヒマラヤ山あり

大布加利亞國及び
 帝國轄下の西
 界す「子ポール」の内
 たる「エウレス」の
 一の夏山と海面とを
 海而とを二系九



亜拉比亞産 虎

豹



駝鳥

亜拉比亞産

之ギラベ
獵糊

物を物と夜物細す所あり
る白糖綿花青黛
科果實薬割昔の物
産ありと既高多しと多摩
虎野と猪及び様もホリ人

口の後神一徳ハハ六
美蓋一人民を如隸とたぬ
可様温順とすも奸悪
る報備の心あり教門を何係を
禮お一衆人を會合とす

大布加利亞産 五色大毒蛇



西印度 亞加業坦多産

丁香

肉桂

教 キヤウ
ニスム ニスム を補述す然も英國 エイグン

より傳教者を送りて因て耶 ヤ

蘇教 ソウキョウ を信仰すもの多し

あり此國の南方より大島あり

「セイロン」の屬島 現今英國 ともし福を為

靈鷲山之圖



東南の半島を
金甌國
東南の支那
國の南方に位置
す美しき西濱

世
九

先列部 緬甸 國中央
緬甸 國 又名 阿瓦 乃 西 亞 東 方 之
安南 國 又名 越 南 乃 暹
羅 王 國 乃 西 亞 甲 羅 國
半島 之 東 南 在 西 亞 及 海 濱 之 東

世
九

他の少國を分列
類編 國とらひ現

今「ベンカル」の部
少備入

せらしほやる島
世の人

龍を地質
地質 樹美



根樹

山舟多造
船を造る

梅樹を植
樹を植す

少子とある大
イルラワツデー「サルー

「メイナ」及び
人の総計

を
約二万の
府の甲

國こくはは多たクハ英えい 暹羅國せんらこくより

多クハ英 國ノ屬地

南なん方ほうより伸のびび出いででたたるる秩ち土ちの

地ちよりこ大たい陸りくををよよ自じ王わうのの國こく

たたのの南なん方ほうのの終しゅうりりはは美み國こく

のの埔ぽ頭とうああののシシンンガガポポールール 暹せんとと小せうの

人ひと民たみのの性せい勇ゆうをを論ろんすす雄ゆう壯さう

ししとと死しをを畏おそむむ守まもりり極ごく烈りつたたるる人ひと

種しゆたたりりけけもも死しをを夫ふもも同どうふふ

便べんたたるるもも剛かう暴ぼうをを好かうむむ

報ほう復ふくののツつありり

安南帝國

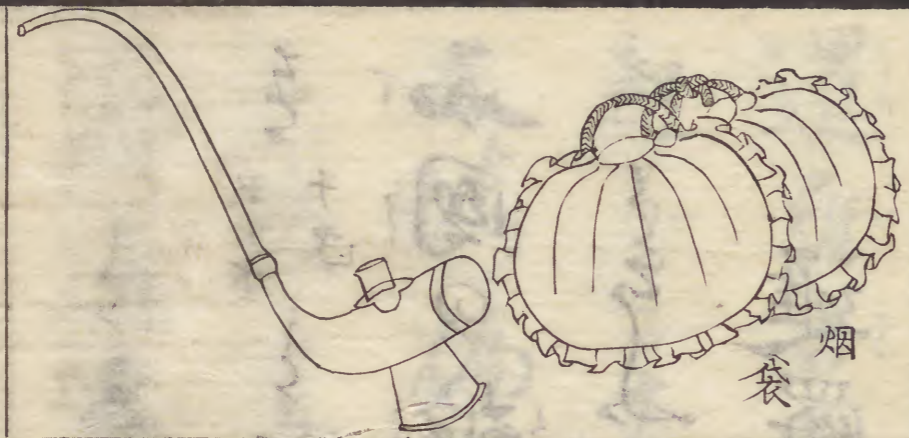
アナム又
名越南

安南帝國を緯線赤道以

北を度り起り二つを度り出り緯

線をも度り以て二つを度り起り

二十一度より出り善一三部



水煙袋 煙袋
東東東東
東東東東
東東東東
東東東東
東東東東
東東東東
東東東東

ユークン
チヤイナ
と云い少部を稱し南部

カニボ
チヤ
稱し今を佛業

兩國の轄らたう其名城をサイゴ

シシ

暹羅王國

暹羅王國

暹羅王國も少部總十度

起り二十四度より至り經線

其地偏西二十度より起り三十

三度より至り止る但し緬甸安

南暹羅の三國を今世総計

暹羅國の人口
 約三百萬
 ありて京城を
 國と云此國海岸



の人民を以てありて大竹を
 基礎とて建造す宮殿
 の橋上より舟橋の只柱
 あるの如し舟の空を
 蓋し舟の海原の往来

子^こに^に互^{たがひ}に^にま^まに^に因^より^に倭^{やまと}女^を溺^なれ^る
 其^{その}後^{のち}及^{およ}ば^せる^も女^を溺^なれ^る
 ひ^ひ後^{のち}あ^あり^に事^{こと}を^をす^す日^ひと^と大^{おほ}
 船^{ふね}の^のみ^み便^{べん}宜^ぎなる^に又^{また}男^{おとこ}を^を溺^な
 る^るめ^めを^を賤^{せん}く^くあ^ある^るを^を以^{もつ}て^て夫^{つとよ}を^を溺^なれ^る

つとよの溺る

シヤムノ男



女

を^を溺^なれ^る又^{また}人^{ひと}死^しす
 其^{その}を^を埋^{まい}葬^{そう}せ^す
 し^して^て以^{もつ}て^て禁^{かぎ}草^{くさ}を^を
 以^{もつ}て^て禁^{かぎ}せ^する^る大^{おほ}
 なる^る他^た智^ちを^を以^{もつ}て^て文^{ぶん}

町の列邦
よき早らせし
たもの

緬甸帝國 ブルマ

緬甸帝國より
北緯十九度
より起り
西緯六十度より
起り
西緯六十度より
起り



阿瓦城之圖

城を阿瓦と云ふ人
其人口の總計約
五万七千あり
城を阿瓦と云ふ人

民の性質を暹羅人の勝る
他國と異ならざるを
唯の政ありてを差
ありて其君臣の名号を
唱へて其姓字を呼ぶ

